

## 高知ハビリテーリングセンター本館落成

スウェーデン語で「能力を獲得する」という意味

2009年7月11日

# 「個別性重視」に細心の注意

この度、本館の落成を迎えることができましたことを、関係諸機関の皆様にご挨拶申し上げます。

昭和47年、高知県は「明日を拓く自立の施設」として身体障害者リハビリテーションセンターの建設計画を立て、昭和54年に県内唯一の身体障害者入所更生、授産施設として、この春野の地に設置しました。

昨年4月に県からの移管を受けて以来、老朽化していた建物はあちらこちらに修繕が必要となり、「何とかもう少しもってほしい」と願いながら経過しておりました。

高知ハビリテーリングセンター  
センター長 上田 真弓



▲記念式典で御礼を述べる上田センター長 ▶テープカット

そして、この7月、待ち兼ねた竣工を迎えたのです。更生部については全室

初めのうちはキュウリと瓢箪のツルがみるみる伸び、ゴーヤがそれに続く。まるで生き物のように毎日成長していてネットに固定するのに忙しい。キュウリを収穫すると、同じツルの小さなキュウリがちまちま大きくなり、いっぺんに10本も採れてしまう。今はゴーヤが真っ盛りで、食べるのにたいへんだ。娘が贈ってくれたブドウの鉢植がベランダの隅にあるが、おいしいのか、葉をガシガシと虫がカジっている。

キュウリの大収穫や虫に葉をカジられても、喜んでメールをするものだから、上の娘はめったに返事がないし、息子は無視、下の娘のメールは短い。

こんな小さなベランダ菜園でも、野菜の生長を眺めることで、結構感動がある。葉っぱがベランダを覆うと、木漏れ日ならぬ葉漏れ日がもれてきて、それが風に揺らいでいる。今年の夏は、採ってすぐの野菜のおいしさや歯ごたえに感動し、緑のカーテンの間を吹き抜けてくる爽やかな風の心地よさを味わっている。

(理事長・ちかもり まさゆき)

▼高知ハビリテーリングセンター遠景



個室、家庭浴を想定した浴室、授産活動として新設科目のクリーニングやパン工房の設備が整うなど、障害の特性が一人ひとり違うのだから誰にとっても100%のバリアフリーは不可能ですが、それでも、なるべくユニバーサル視点でと細心の注意が払われています。

時代の流れとともに医療制度が変わり入院期間が短縮化されてはいるものの、病気や怪我による障害を持つ人々が減っているわけではありません。地域移行を目指すのであれば尚更、医療機関でのリハビリテーションを終了した方々が、もう少し生活訓練が必要だったり、自分の適性を見い出したり、もしくは、職能訓練をしたいなどの希望を持った場合、トレーニングセンターが重要になると思います。それを担うべき場所がこのハビリテーリングセンターであり、今後益々大きな期待と厳しい目が向けられるでしょう。さまざまな機関との連携を基に、地域の方々に広く施設を開放していき多くの方に親近感をもたれる施設として存在して参りたいと思います。

職員一同、ますます気を引き締め支援者として先駆的精神で臨んで参ります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 緑のカーテン



近森 正幸

自宅の東側のベランダ長さ6m、巾1.2mほどのスペースで、5月の初めから家庭菜園を始めている。土づくりや苗植え、それに窓の全面にツルを延ばして、夏の日陰をつくるためのネット張りなど、夫婦でまる二日かけて、久しぶりの肉体労働をした。

今は夏野菜になるが、唐辛子のなかでも最も辛いといわれるメキシコのハラペーニョ、京野菜の万願寺、オクラ、それにマイクロミニトマト、ネットの下にはゴーヤやキュウリ、瓢箪などを植えている。



# 社会福祉法人ファミーユ高知の高知ハビリテーリングセンターと 障害者福祉サービスセンターウェブ

## 使いやすさの工夫 高知ハビリテーリングセンター 本館の紹介

2、3部屋ごとに明るい休憩スペースを設置している▶



▲3階の東奥の訓練室。平行棒やダンベルなど、一通りの身体訓練が行える



▶2階までの車椅子用の洗面スペース



▶各階にあるシャワー室



▲大浴場。といっても家庭浴を想定して小さい浴槽



▲全室個室が売り！ 階ごとに扉を色分けしている



▲足を伸ばせる便座。ドアには独自の標識▶



▲広々としたパン工房は新稼働する予定

## 昼間の時間をどう過ごすのか、 ウェブでより有意義に、おだやかに！

ウェブの楠目施設長が、いまの施設の前身に当たる障害者の小規模作業所を立ち上げたのは12年前のこと。それまでに培ったノウハウを活かして、「障害者の経済的自立と社会的自立を具体的に進めたい」と、現金収入に繋がる作業に着目。公共事業の清掃や企業の生産ラインに関わる委託作業、DM発送作業など、着実にその品目を増やし続けてきた。

最初の大きな転機は7年前。国の緊急雇用対策事業を活用した高知市の事業を受託したこと。次の転機が3年前、近森会グループとしての再スタートは愛宕町一丁目の町のド真ん中に拠点を移した。この4月には新たにクリーニング事業も始まり、利用者の給与アップに繋がっている。

ナースの制服やシャツなどへと洗濯品目を増やしていくのが当面の課

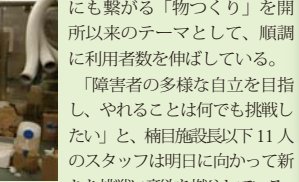


▲この夏、春野のあじさい街道へ行った折題だが、洗濯作業担当の利用者からは、「こうして再び普通に仕事が出来るとは思わなかった」「昔、クリーニング工場で働いていた頃を思い出しが湧いてくる」など、作業が生き甲斐ともなるような前向きな感想が聞けた。

一方、ウェブの大きな事業のもう一つの柱は、障害者の土曜日曜休日の過ごし方と、家族のレスパイト・ケア



▲土佐和紙芸村でこんにやく作り挑戦 (障害者の日常的なケアからの一時的な開放) をどうするかということ。自立支援法による事業で、具体的には休日も休まず、外出したりお菓子作りや手芸品づくりなど、現金収入にも繋がる「物づくり」を開所以来のテーマとして、順調に利用者数を伸ばしている。



▲村田支援員と、右は機械操作と洗剤担当の中城さん



▲それぞれ分担作業が板について来た

# 第1回 高知県感染症・ケースカンファレンス

## 研究会立ち上げ 2009年6月20日(土)

近森病院 呼吸器内科 科長 中間 貴弘

長崎大学医学部歯学部附属病院感染症内科(熱研内科) 石田正之先生



古本朗嗣先生

亀田総合病院 感染症科 細川直登先生

静岡県立静岡がんセンター 感染症科 大曲貴夫先生

感染症はいずれの臓器においても重要な疾患群の一つです。

昨今、臨床の現場に即した感染症教育・感染症診療の重要性が言われておりますが、まだまだその教育環境は十分とは言えません。そこで、高知県下の感染症診療に携わる先生方をコアメンバーとして、「高知県感染症・ケースカンファレンス」という研究会を立ち上げ、その第1回を近森リハビリテーション病院で開催いたしました。

コメンテーターとして、静岡県立静岡がんセンター感染症科の大曲貴夫先生、亀田総合病院感染症科の細川直登先生、長崎大学病院感染症内科の古本朗嗣先生にご参加いただき、大曲貴夫先生の特別講演「感染症診療の基本的考え方」のち、2症例のケースカンファレンスをそれぞれ約1時間かけて行いました。

医師のみならず、コ・メディカルス

タッフにも多数参加していただき、会場は予想を超える75名の参加者で、席が足りないほどでした。

有意義であったとの声が多く聞かれ、日頃の感染症診療に役立つ研究会になったのではないかと考えています。

今後も年に3回開催していく予定で、次回は10月開催予定です。多数のご参加をお待ちしております。



## ハッスル研修医 鈴木 美香

### 近森の活気に負けないように！

7月までは消化器内科、8月からは循環器内科でお世話になっています。

日本海側の富山からはるばる太平洋側の高知にやってきて早7年目に突入しました。高知大学入学当時は、卒業後に高知に残るとは思っていませんでしたが、太陽がさんさんと降り注ぐ高知がすっかり気に入って、縁あって近森病院で初期研修をすることになりました。

研修が始まってからは日に当たることも少なく、今年は日焼けをせずに済みそうです(笑)。

高知の生活にはすっかり慣れたのですが、研修がはじまってからは日々わからないことだらけで、周りの人たちに支えられて何とかここまでやってこられました。今はまだ、医師としても、社会人としても半人前でお給料をもらっていることすら



不思議な感じですが、一つ一つ自分のできることを増やしていきたいと思っています。日々、近森の熱気に圧倒されそうですが、近森病院の活気にかき消されないよう、元気に頑張っていきたいと思っています。

## 8月の歳時記

### 夕顔

画像診断センター 受付 山本 美佐



幼い頃、実家の庭先が、夏になると朝顔と夕顔の花でいっぱいだったのを思い出します。夕暮れに咲き始め、翌朝には萎んでしまうこの白い花は、朝顔のように改良が進んでないだけに、素朴な味わいがあります。花言葉は、「はかない恋」-『源氏物語』の「夕顔」の章は、はかなくも美しい物語。まさにこの言葉に相応しく、王朝貴族の心を捉えたその優雅さは後世になってもなお人々の心を打つ美しさ。夏の風情を表すようではありませぬか。



画イラストレーター 千光士 可苗



# 臨床はあくまで一つの過程なんだ!

近森リハビリテーション病院 言語療法科 科長(言語聴覚士) 矢野 和美

## ① 北国を実感

到着した日は天気もよく、ぐずついていた高知よりかえって暑いくらいでしたが、平野の向こうに見える山はまだ雪を残していて、北国であることを主張しているようでした。

## ② 障害への関わり方の共通点

さて、学会の方は3題の教育講演と2つのシンポジウム、一般演題という内容でした。

なかでも「グループの力」というテーマで行われたシンポジウムは大変興味深いものでした。吃音・失語症・高次脳機能障害・高機能自閉症児の集団活動を支援してこられたそれぞれの先生方からの発表でしたが、障害によってグループ活動の内容や関わり方の違いはあるものの、「他者を信頼」し、「自己を肯定」し、「社会的に機能する力を高める」という点は共通していると思いました。

## ③ 振り返りの大切さ

どの先生からも「自分が支援したいからする」というようなはっきりした気概を感じ「自分の生活はないです」と突っ当て答えられる場面もありました。

臨床はあくまで一つの過程であり、その後の生活を当事者や家族としっかり見据える姿勢を持っているか、具体的な援助が当事者や家族の拠り所となり生活を支えていくことを意識しているかなど、改めて振り返る大変良い機会をいただいたと思っています。

## ④ 「グループ」が育つ働きかけ

グループ活動の中で、これまで援助されてきた当事者や家族が、あるところから援助者の要素も持ち始めるなど、臨床では得られないものが体験できる「グループ」が育つような働きかけがで

るよう、自分も研鑽を重ね成長していきたいと思えます。

最後に、長岡市はビールのお供に欠かせない「柿の種」の発祥の地とのこと、皆さんご存知でしたか? 懇親会ではチョコ味、イチゴ味、チーズ味など、いく種類もの柿の種を味わい、しっかりおみやげにもして帰途につきました。

オルソリハ4階に入院中の西村耕治さん(最後列右から三人目)による歌とギターの演奏会が1階の「河」で開かれました。「涙そうそう」「糸」など、ちょっとオシャレなティータイムになりました

## ♪ オイノミニコンサート

2009年6月25日(木)



## 急性期 リハビリテーションシリーズ

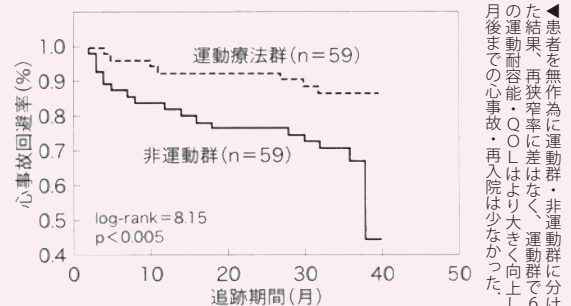
### その1 心臓リハビリテーション

近森病院 理学療法科科長 前田 秀博

しい。都道府県別にみた心疾患死亡率(10万人対)で高知県が毎年全国第2位となっているのを見るにつけ、おこがましいけれど、「高知を、どうにかせねば」とよく思う。

▼2009.7.11 幡多地区PT勉強会資料より

図. 冠動脈インターベンション後の患者に対する運動療法の効果



(出典 Bela r dinelli R, et al : J Am Coll Cardiol 37 : 1891-1900, 2001)



患者を無作為に運動群・非運動群に分け比較した結果、再狭窄率に差はなく、運動群で6ヵ月後の運動耐容能・O<sub>2</sub>はより大きく向上した。月後までの心事故・再入院は少なかつた。

心疾患の患者さんに対する医学的治療の目的は、質の高い生活を獲得させ、そして良い状態を長く維持することである。『心臓リハビリテーション』とは、こうした目的を達成させるために行なわれる一連の流れを指し、いわゆる運動だけでなく、生活習慣や栄養、服薬管理に関する患者教育や心理カウンセリングなど、患者さん自身の努力を支えるための多角的支援を含む。その効果は大きく、冠動脈疾患患者8,940名のメタ分析結果では通常の治療のみに比べ総死亡を20%、心死亡を26%減少させるとされ、2005年に始まった健康フロンティア戦略の具体目標とも一致している。

また追跡調査の結果、運動しないより適切に運動実施した方が心事故も少ない(ETICA study)とされ、生命予後改善のみならず、高齢心不全患者における多職種介入効果は再入院を44%も低下させたと報告(イギリス)されている。

日本においても「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」が2007年に改訂され、参考にしながら、いま我々はチームで患者さんに関わっている。国民衛生の動向をみると、日本人の死亡率は心疾患が第2位となって久

## 第24回クリニカルパス大会

### 『頬骨骨折のパス』

形成外科部長 赤松 順

2009年6月27日(土) ホテルサンルート高知で、頬骨骨折パスをテーマにした第24回近森病院クリニカルパス大会が開催されました。

形成外科・杉田科長による疾患の解説に始まり、5階西・安松看護部よりパスの説明、薬剤部・西森薬剤師より使用抗生剤に対する提言、栄養部・佐藤管理栄養士より術後安静目的の咀嚼運動時負荷を軽減する最新の食態の知見、画像診断部・中川放射線技師より頬骨骨折の画像診断と吸収性プレートの3DCT画像描出、医事課・岡村診療情報管理士より本疾患と同一DPCコードによる他施設との件数やコスト比較といった各専門職域からの様々な視点の発表が相次ぎました。

ミニレクチャーでは、クリニカルパス副委員長の整形外科・西井科長よりアウトカムマネージメントを考慮したバリエーション分析の必要性やあり方についての、簡潔でわかりやすいミニレクチャーがあり、今後パス作成の際の良い指標となりました。

当日は、様々な学会や集会有り、参加は96名と通常より少人数でしたが、近森理事長を始め、川添管理部長よりはDPC下でのコストの捉え方、高橋クリニカルパス委員長、梶原統括看護部長よりそれぞれの立場からの示唆



後列左から、形成外科 天野信行さん、管理栄養士 佐藤亮介さん、形成外科 澤村尚さん(後期研修医)、形成外科 杉田直哉科長。前列左から、整形外科 西井幸信科長(クリパス副委員長)、医事課 岡村美和さん、薬剤師 西森英理さん、看護師 安松和美さん、放射線技師 中川以都香さん、麻酔科 畠中豊人部長(同会)、形成外科 赤松順部長(筆者)



に富む発言や助言があり、活発でスリリングな意見交換が行なわれ、会場全体が熱気を帯び、あっという間に時間が流れました。

司会の畠中先生の軽妙な進行で、盛りだくさんの内容が時間通り無事終了し、更に充実した内容の頬骨骨折パスへの足がかりとなりました。皆様ありがとうございました。

## 新 医療安全シリーズ⑦

### 声を掛けやすい オーラ

医療安全担当看護師長 田村 一恵



月日の経つのは早いもので今年も半年が過ぎ、もうすぐ高知の夏はよさこい祭りが始まるとうしている。

私の今年のスタートは、有名な方との偶然から始まった。1月の神戸、奮発して宿泊したホテルのロビーに彼は現れたイチローの、ただならぬオーラを濟ませ、夫と二人ソファに座りシャトルバスを待っていた。

と、そのとき。ニット帽を目深にかぶりウィンドブレーカーを着た男性がこちらに向かってくる。何だかホテルの雰囲気と違った方だなと思いつつ、目を見つめていたら、目が合った。「あっ、イチロー!」。気づいてい

ない夫の足を叩いて知らせたが、イチローは引き返してしまっただけで、WBC前の自主トレを行っている最中であることに気づき、ワクワクしながら二人で待つこと3分。再び颯爽と現れたイチローの、ただならぬオーラに「サイン下さい!」などと言える雰囲気ではなく、「WBC頑張ってください」と心の中でつぶやき後ろ姿を見送った。スター選手の「近寄り難いオーラ」というものを初めて感じた。

私達は「声を掛けやすいオーラ」で、患者さんやご家族と日々関わりたいものです。

## 新シリーズ♥♥♥ 管理部長のこだわり ヘルシー美食 9



小さい頃、土佐市の宇佐に住んでいた伯母のところへ夏休みに行くとき小さなジャガ芋を茹でてくれたものだった。砂地の畑なのでジャガ芋は大きくなりたがるのだと思っていた。本当だったろうか。今月の料理も超簡単。

## ジャガ芋の素揚げ

〈作り方〉①小振りのジャガ芋はよく水気をふき取って食べるだけの量を、②たぶら鍋に入れ、ひたひたの量の油を入れて、そのあとで火をつける。③時間はかかるが、170℃ぐらいに達したら、その温度で気長く揚げ続ける。低温で気長く揚げるのがポイント。④クシがスーと通ったら出来上り。

監修 臨床栄養部科長 吉田妃佐



〈食べ方〉熱い熱いと言いつつ皮を剥き、塩をチョッピリつまんでハフハフと食べる。ジャガ芋のホクホク感と旨味がギュッと詰まっていた、「何と大地の恵みの豊かなことか」と思わず実感してしまっただけで、肉ジャガやポテトサラダなどは本来主役の筈のジャガ芋が何となく脇役になってしまっている。当たり前の話だが、この素揚げは堂々たる主役である。一緒に飲むビールが脇をしっかりと固めている。もう「夏の風物詩」と言うのは少し言い過ぎかも知れない。

バターを付けてもオリーブオイルを付けても good。ついでにクリカボチャやしとうなども素揚げしてもいい。白ワインでやったら、イタリアのトスカーナ地方の丘を思いやれると思う。



### 看護部 キラリと光る看護 Part 2

近森リハビリテーション病院 看護部長 寺山みのり

## 見えるように仕事をする、時間と場、目標と課題の共有、その大切さを実感する日々

当院のシニア看護師長たちは、「見えるように仕事をする」を心がけるようになった。

これまで、自分の病棟づくりに必死で、周囲や自分自身のことが見えにくかったのではないだろうか。病棟の中にどっぷり浸かり、いつもスタッフの真横にいると、片側の細かい部分は見えても、その全体像は見えない。

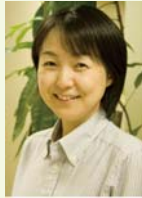
一方、少し離れて真上からチーム全体を見渡すと、それまで見えなかったものや見ようとしてこなかったものが視界に飛び込んでくるものだと思う。数年前に白衣を脱いで挑戦したマネジャーにも、「常に真上から、そして時には真横で」の立ち位置が求められていたのかもしれない。

そんな思いで、昨年の4月から、看護師長が1年かけて全病棟を担当する4ヵ月毎の異動を始めた。これに加えて、看護師長各々が、医療安全、感染、教育を担当し、部門を超えて活動した。さらに、私が病気の治療で長く不在と

なり、これまで総看護師長ひとりが担当してきた急性期との連携窓口も、看護師長たちが代わる代わる担当した。そのようにして知ったのは、「自分にしかできない(他人には見えない)仕事を持つ危うさ」と、「多くの人の目で見ることの大切さ」だった。

この1年で、私たちは各々の持ち味、強みも理解しあえた。何よりも自分自身のことがわかってきた気がする。シニア看護師長たちは、毎朝の始業前の病床会議、昼の休憩、仕事をひと段落させた夕方と、とにかく顔を合わせ、言葉を交わし、相談し合い、確認し合い、気持ちをお互いに実践の場に戻す。

病棟で患者を中心としたチームにも、私とシニア看護師長たちのチームにも、時間と場、目標と課題を共有するこの習慣がとても大切なのだと感じている。



第59回 地域医療講演会  
9月11日(金) 18:30~ホテルサンルート高知 テーマ「急性大動脈症候群患者を救うためには? -病診連携とチーム医療-」講師 天理よろづ相談所病院 心臓血管外科部長/京都大学臨床教授 山中 一朝 先生  
第58回 日本形成外科学会 中国四国支部学術集会 9月13日(日) 高知県立県民文化ホールグリーンホールで。会長を近森病院形成外科 赤松順部長が務めます。

## リレーエッセイ マイブーム

近森オールリハビリテーション病院 作業療法士 山崎 慎太郎



最近、物が小さくなっているようです。特に「ネットブック」といった低価格の小さなパソコンが大変な人気との噂を耳にしました。実は、私は物を持つ習慣が無く、家にある家具は家電とベッド以外は全て人から貰ったもので生活しています。だから当然パソコンも父親からの譲り物で不自由が無いので、今年の夏も特に何も買わずに過ごすかと思っていました。

が、衝動買いで ipod touch を買ってしまいました。これは、ご存知の方も多いと思いますが、メモ帳程度の大きさの物で、音楽は勿論、動画やインターネットなど、様々な機能を持つ優れたものです。

また、アプリケーションさえ入手すれば多様な用途があります。中でも気に入っているのは、電子辞書としても使用できることで、市販の電子辞書よりも多少安価で、なおかつ電子辞書以外の機能も使用できるというのが今回の購入の理由の一つです。

さらに、解剖学書のアプリもあり、この小さな機械一つあれば場所を選ばず調べ物や勉強が可能になります。(私はそこまでできませんが)。

このような小さな機械でも、様々な機能を持つようになった現在の世の中ですが、今後、いったい、どこまでできるようになるのか楽しみです。

## 聴診器と私 聴診器は今も変わらず...

『聴診器』のコーナーの原稿依頼が舞い込んだ。「なんで」と思わず声が出た。聴診器とは無縁であったため、どのように書けばいいの戸惑ってしまった。正直、6年間デパートで過ごし、今年久しぶりに病棟復帰してシステムはわからず、いまだに電子カルテとも格闘している。

しかし、患者さんのベッドサイドに立ち、検温をするとき懐かしさと不安で気持ちがいっぱいになってしまった。血圧計も水銀しか使ったことがなかったので、戸惑いながらも聴診器をつけ、音を聞くちょっと感動してしまっ。



眠っている。そんなことを思いながらも聴診器の形は今も昔も変わらず、時代の流れと子どもの成長と自分の年齢など考えてしまおうと複雑な気持ちになってしまった。

第二分院4階病棟看護師長 岡村 邦弘

## ようこそ 県立高知東高校の生徒さんの夏休み体験学習



▲管理棟5階会議室でBLS体験中

近森グループでは多くの学校の看護や介護を勉強中の皆さんの実習を受け入れていますが、このたびは総合学科1年次生の三人が「社会体験学習」の目的で来られました。総合学科の科目にある「産業社会と人間」の授業の一環で、7月21日からの4日間、近森グループの各病院を回りました。

3日目の午後にはBLS(心肺停止状態の人に対して行なう救命処置)の実習。看護師を目指しているという彼女たちの、高校の先輩に当たるICU病棟の町田清史主任から丁寧な説明を受けた後、人形に向かって人工呼吸、胸骨圧迫・AEDの練習。ときどき笑い声も聞かれ、楽しく現場体験ができた模様。「改めて看護師になりたいと思った!」とも。

## 近森グループ第2回写真展開催中



新館2階ロビーで開催中ですが、力作をご覧いただけましたか? 8月上旬には、理事長賞・管理部長賞・統括看護部長賞・コミュニケーション委員長賞・古茂田賞・奨励賞の発表と表彰式が行われます。各作品の出品者名も掲示しますので、楽しみにしてくださいね。さて、今年はあなたのどの作品が表彰されるでしょう?



突然ですが、クイズです。

## シリーズ★近森会交友録エッセイ

## 近森リハ病院建設以来、進行形の高知ハビリ、そのうえでかつては心外の患者体験までも……

(株)THINK 建築設計事務所 代表取締役所長

前田 博



奈良市の郊外、秋篠の森で

1948 高知市に生まれる  
1972 武蔵野美術大学造形学部建築科卒  
1973 坂本一成アトリエハウス10  
1978 品原建築設計事務所  
1983 (株)THINK 建築設計事務所設立。現在に至る。所属団体は(株)日本建築学会、(社)新日本建築家協会、(社)高知県建築士協会、(社)高知県建築設計士監理協会

初めて近森理事長と川添管理部長が私の事務所を訪ねて下さったのが22年前、1987年だったと記憶しています。もうお二人はお忘れかもしれませんが、狭くて雑然とした事務所にお迎えしてたいへん緊張したことでした。

開設して4年目の経験も浅い事務所近森リハビリテーション病院の設計の依頼をいただき、そのご英断に感謝することはもちろん、その責任の重さを痛感した次第でした。当時、石川誠院長(現初台リハビリテーション病院理事長)やスタッフの皆さんの高い理念や経験に基づき、また仕事に対する情熱をうけ、延べ何百時間にもおよぶ熱心な打ち合わせを重ね、無柱のリハビリテーション室を実現させ竣工しました。そしてこの最初の仕事から得たものは、我が事務所にとって大きな経験となり、また貴重な実績となりました。

2000年、心臓血管外科手術室増築工事の依頼をうけました。病院の機能を止めず、心臓血管外科手術室を増築、さらに一階の血管造影室と二階の手術室、三階のICUを直接繋ぐという難易度の高い仕事でした。岡山大学の佐野教授の視察の際のご意見だとお聞きしていますが、即それを実行に移すことの出来る近森会に、ゆるぎない医療に対する信念と実行力を感じたことでした。

私が心筋梗塞で倒れたのが工事途中の翌年2月でした。血管造影室の操作室からマイクを通して飛ぶ川井先生の指示を聞きながら、勇気をいただき、また安心していられたように覚えています。8月、入江博先生の執刀によりバイパス手術を受けました。翌朝、晴れ晴れとした先生のお顔を拜見し安堵し、「少し歩いてみますか?」の言葉にビックリ!

妻を車椅子にのせて私が押して歩いて二度ビックリ! したことでした。そして入院生活、当時の担当の森田照正先生やスタッフの方々たいへんお世話になり、また私自身としては患者という立場で貴重な体験をしたことでした。

2009年、3年前のプロポーザルコンペに始まった高知ハビリテーションセンターの一期工事が、この7月竣工しました。竣工式のテープカットに集まった入所予定の方々の喜んでくださっている姿、笑顔や明るい

話声に接し、昨年4月の移管から今日までのスタッフの皆さんの日々の努力と熱意を感じ、感慨深いものがありました。来年5月には二期工事も完成し、全貌をお見せ出来ると思います。

1983年の事務所設立以来、がむしゃらに走って気がつけば25年。長きにわたりおつき合ひいただき感謝申し上げますと共に、職業人として、ご期待にそえるよう努力してまいりたいと思っております。

唐突ですが、これはどこの風景でしょうか。本文をよく読んでくれている方はすぐわかりますよ。答えは紙に書いて、広報担当(鍵本・公文)まで回してください。正解のなかから厳選する抽選のうえ、お二人の方にゴーヤとキュウリを、収穫量に応じて差し上げます。(ひろっば編集室)

シリーズ★近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもお楽しみください!(ひろっば編集室)



## 図書室便り

(2009年6月受入分)

- ・最新整形外科学大系6 手術進入法と基本手術手技 一脊椎・脊髄 / 戸山芳昭 (専門編集)
- ・形成外科 ADVANCE シリーズII -6 各種局所皮弁による顔面の再建 最近の進歩 / 波利井清紀 (監修)
- ・専門医のための精神科臨床リユミエール10 注意障害 / 加藤元一郎 (他責任編集)
- ・臨床研修イラストレイテッド7 外科系マニュアル 手術の基本と病棟診療・手術の知識 / 杉原健一 (監修)
- ・看護管理学習テキスト①~⑧+別巻 / 井部俊子 (他監修)
- ・7つの習慣 会社、家庭、個人、人生のすべて 成功には原則があった! / スティーブン・R・コヴィー
- ・7つの習慣 最優先事項「人生の選択」と時間の原則 / スティーブン・R・コヴィー
- ・TQ 心の安らぎを発見する時間管理の探究 / ハイラム・W・スミス
- ・ファシリテーター 蘇る組織 / 芦崎 治
- ・明るい医療現場改革 支えあう職場づくりの挑戦 / 麻生 泰 (編著)
- ・臨床医のためのDPC入門 第2版 Q & Aで学ぶDPCの基礎知識120 / 松田晋哉
- ・患者トラブル解決マニュアル / 日経ヘルスケア (編集)
- ・クリニカルパス用語解説集 / 日本クリニカルパス学会 用語出版委員会 (編集)
- 《寄贈本》
- ・THE MARROW NAILING METHOD / Professor Dr.G Kuntscher
- ・救急隊員標準テキスト 第2版 / 救急隊員用教本作成委員会 (編集)
- ・臓器別救急疾患 救急医療の基本と実際 / 山本保博 (監修)
- ・プライマリケアにおける症候・疾患別のわかる薬の使い方 チャートで学ぶ病態メカニズムと治療 / 奈良信雄 (編集)
- ・新IVHマニュアル そのこつと実際 / 浜野恭一 (監修)
- ・整形外科病理 / 齋藤 脩 (他訳編)
- ・医師・薬剤師のための薬の使い方と説明 増補 / 石川晋介 (他編)
- ・骨折・外傷シリーズ4 脊椎の外傷 その2 / 榊田喜三郎 (他監修)
- ・ケアのこころシリーズ⑥ 救急時のケア / 金田和子 (他著)
- ・ナースキャップは「ききみみずきん」一看護の現場から / 宮内美沙子
- ・五体不満足 / 乙武洋匡
- ・日本内科学会雑誌 (雑誌) 93(5-12),94(1-12,臨増),95(8-12),96(2)<2004-2007>
- 《別冊・増刊号》
- ・透析ケア 2009年夏季増刊 検査結果表が読める! 患者指導にいかす! 透析患者の検査と検査値 / 重松 隆 (編集)
- ・病理と臨床 Vol.25 臨時増刊号 診断に役立つ免疫組織化学 / 「病理と臨床」常任編集委員会 (編集)
- ・日本医師会雑誌 137巻 特別号(2) 生涯教育シリーズ75 呼吸器疾患診療マニュアル / 工藤翔二 (監修・編集)
- ・日本医師会雑誌 138巻 特別号(1) 生涯教育シリーズ76 がん診療 update / 跡見 裕 (監修)
- ・別冊・医学のあゆみ 心筋症 一基礎と臨床: Up To Date / 鄭 忠和 (編集)

2009年 6月の診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	17,711人	
	新入院患者数	791人	
	退院患者数	777人	
	近森病院		
	平均在院日数	15.00日	
	地域医療支援病院紹介率	83.11%	
	救急車搬入件数	422件	
	うち入院件数	189件	
	手術件数	384件	
	うち手術室実施	260件	
	うち全身麻酔件数	160件	

### 6月の退職者

敬称略

- ◆ 15日付、松本英里子・本院薬剤科薬剤師。
- ◆ 23日付、岩本紫・人工透析室看護師。
- ◆ 30日付、林真夕・手術室看護師。西野美代子・人工透析室看護師。吉積茜・オルソリハ病院栄養科管理栄養士。

### 編集室通信

▼数年ぶりに七夕の笹を飾り、短冊に願いを書いてみました。若い頃には「好きな人と結ばれますように……♥」「宝くじが当たりますように…\$」などの願いを書

くことを楽しんだものです。いまは、風に揺られている七夕を眺め、日本の伝統のわび・さびを感じながら、自分の体調の良さを願っている私がいきました。(由似)